

地域創生科目

グローバル・ガバナンス（フィリピン）

プログラム区分	海外実習
主幹部署・問合せ先	世界共生学科
研修先国・都市名	フィリピン・マニラ
研修先	NPO 法人アイキャン名古屋本部及びフィリピン支部
プログラム概要	<p>本研修は、多文化共生社会を担うアクティブな人材へと成長することを促すため、多文化コミュニケーション能力と地域の現状分析・課題発見・課題解決能力を磨くことをめざす。フィリピン研修は、学内での4日間の事前研修、フィリピン現地研修（5泊6日）及び国内研修（3日間）、そして2日間の事後研修によって構成される。フィリピン現地では、貧困・教育・持続可能な社会づくりに焦点を合わせ、マニラ（フィリピン）に隣接するケソン市をフィールドとして、かつてごみ山として知られたパヤタス地区にてスカベンジャーとして暮らし、その後フェアトレード商品生産をするようになった人への聞き取り、別の地区のごみ山で現在スカベンジャーとして暮らす人への聞き取り、マヨーン通を含めて路上生活をする子どもたちへの聞き取り、かつて路上生活をしていて現在は自分たちで組合をつくってビジネスを立ち上げている人への聞き取りを通して、フィリピン社会が抱える社会構造的な問題を知るだけでなく、その解決策までを大学で学んだ知見を生かし実地で学んでいく。また、国内研修では多文化共生の観点から、在名フィリピン人の子どもたちが通う学校の訪問、親の都合で小さいころに日本に来てそのまま暮らすことになったフィリピン人への聞き取り、在留外国人の割合が高い安城市に暮らすムスリムの方々への聞き取りを実施することで、日本社会における多文化共生のアプローチのあり方を学ぶ。学生たちはすべての日程で、その日の振り返りをおこない、同時に意見交換を行うことで一日一日の体験について、一人ひとりが整理する時間を設けている。</p> 
日程	出発予定時期：2026年2月中旬 帰国予定時期：2026年2月下旬 期間：6日間
単位認定	地域創生科目グローバル・ガバナンス（2単位）
他学科生の受入れ	可 受入れ可の他学科：全学科
語学研修の有無	無
引率者の有無	有
住形態	子どもの家（認定NPO法人アイキャンが保有する宿泊施設兼研修所）
その他	宿泊先：「子どもの家」認定NPO法人アイキャンが保有する宿泊施設兼研修所。路上生活をする子どもたちのうち、事情があって家族と過ごすことができない子ども向けの宿泊施設であり、就労支援のための研修施設を兼ねる。宿泊部屋（鍵付き）、トイレ（水洗）。風呂はシャワーは無いため基本的には水浴び。

体験記：世界共生学部 地域創生科目フィリピン研修に参加して

所属学科：世界共生学科

氏名：後藤輪子

『『豊かな生活』、これが今回のフィリピン研修での私のキーワードだった。経済的な豊かさだけに依存しない生活を目にしたときに、国際協力、国際開発のあるべき姿について改めて考えさせられた。ゴミ山でスカベンジャーとして働く女性、路上で物乞いをしながら生活する子供達とのコミュニケーションを通じてフィリピン国内の貧困がいかに複雑に絡み合う社会構造の元引き起こされているかを知った。無邪気な笑顔で子どもらしく遊ぶ子供達は私たちのその頃と何ら変わらないはずなのに、そんな子供達が私たちの目の前で、信号待ちで止まるトラックの窓を拭くことでお金を稼ごうとする姿に、私には理解したくても仕切れない彼らの生活やその想いの一部を垣間見た気がした。教育は必要だ、教育は貧困を減らす、そういったことをよく耳にする。実際私も教育を受けられずに貧困に陥ってしまうそのサイクルは確かなものだと考えている。しかし、教育が貧困を再生産してしまう可能性も今回の研修で懸念するようになった。貧困へのアプローチは一筋縄ではいかず、多角的、多面的でなければならないと同時に教育のあり方というものを再度考えていきたい。フィリピンを支援する認定 NPO 法人 ICAN の取り組みを知る中で、日本に住む私たちが、不平等な世界がもたらす結果を日々の生活の中で経験する機会が益々増えていることに気づく。途上国を支援することは決して途上国のためだけではなく、そこには相互利益が働いている。また、相互関連の高まる地球上で海の向こうの問題はもはやどこか遠くで起きている問題ではなく、どこにでもある私たちの問題になる。私の体験記が、実際に自分で確かめようと行動に移すためのきっかけになれば嬉しい。最後に、今回の研修でお世話になった吉田さんを始めとする認定 NPO 法人 ICAN、フィリピン現地の方々、引率を担当して下さった宮川先生、一緒に学びを深め合った 6 人の仲間たちに感謝を伝えたい。

1.

